

周智郡森町 ときわ保育園 園長 萩野洋子先生

今回、取材に訪問させていただいた「ときわ保育園」さんは、百二十名定員の保育園です。近くには太田川という大きな川が流れており、その川に架かる橋を渡って、天方城跡に続く山道へ向かう途中の自然豊かな場所に、ときわ保育園さんがありました。

私たちが取材に訪れた日は、秋晴れの気持ちの良い日で、広大な園庭にある紅葉が赤く綺麗に色づき、歓迎してくれました。



平屋作りの大きな園舎は前園長先生が北欧の文化を取り入れ、漆喰風の壁や色彩豊かな手洗い場の水受け、子どもたちが園舎の中に居ながら風や光、時には雨の降る様子を眺められる中庭が設けられ

ていました。

園舎を新築されて二十年程が経過するようですが、こだわり抜いた設計により年数を感じさせない作りとなりました。また、旧園舎を改築し〇歳児室を本園舎と離れた場所にする一方で、〇歳児が落ち着いて生活できるようにしていました。

園庭には四季を感じさせてくれる木々の他、季節に合わせて栽培を行う畑、木造の大型の総合遊具、長いトンネルのある築山等、子どもたちが身体を十分に動かして遊べる環境が整っていました。

保育方針は「温かく家庭的な雰囲気の中で『よく遊び・よく食べ・よく寝る子』ということ、〇歳児～五歳児まで「繋がる保育」となるよう「基本的な生活習慣」の自立から、「達成感」や「自己肯定感」を育んでいます。

食育に力を入れていて、二歳の子どもたちはクラスで炊飯器を使ってお米を炊いており、給食の時間が近くなると、お米の炊けるいい匂いが子どもたちの食欲を刺激してくれるそうです。

あそびは「子どもたちが選択し遊びこめる」ように、年齢の発達に合わせて玩具を年々二～三回入れ替えるようにし、「お片付け」ではなく「元にもどそうね」と声をかけ、満足・達成感が得られるように工夫しています。



年中児から、「さわり織」に触れるようにしています。年中はポシェット等の小物からつくりは

じめます。年長になると、さをり織機を使ってマフラーを編んだり、年によってはベストやパンツ等も作ったりするそうです。

元々は障がい者の施設で指先の運動として取り入れられていた、さをり織を、子どもたちにも楽しんでもらおうと、保育に取り入れるようにしたそうです。たくさんある糸を自分で選び、紡ぎ合わせながら世界で一つだけのさをり織を完成させていきます。織機は園内に三台あり、一年を通じて交代で編むようにしているとのことでした。

園外保育では、夏の暑すぎる時期を避けて、片道一時間はかかる天方城の跡地である「城ヶ平」まで、山を登っていくそうです。年齢に応じて、最初は緩やかに設定していきますが、一年をかけて登って行くうちに、三月には以上児全員が山頂まで登ることができるようになるそうです。

最後に、発表会を近日に控えていたお忙しい時期に、快く取材を引き受けてくださった、萩野先生を始め、職員の皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。